

がん対策関係予算について

| | |
|-----------|---------|
| 平成19年度予算案 | 533.8億円 |
| 平成18年度予算 | 410.1億円 |

I がん医療の提供体制の整備等 120.9億円（75.5億円）

1. がん予防・早期発見の推進 ……厚生労働省 30.4億円（45億円）
 - ・効果的で質の高いがん検診の普及
 - ・がん予防の推進と普及啓発
2. がん医療水準均てん化の促進と情報収集体制の整備
 - ……厚生労働省 85.9億円（28.5億円）
 - ・がん診療連携拠点病院の機能強化と診療連携の推進
 - ・国立がんセンター東病院通院治療部（仮称）の設置
 - ・地域の特性を踏まえた対策の推進
 - ・がん医療に関する情報の収集提供体制の整備
3. がんの在宅療養・緩和ケアの充実
 - ……厚生労働省 4.6億円（2億円）
 - ・在宅緩和ケア対策の推進
 - ・緩和ケアの質の向上及び医療用麻薬の適正使用の推進

II がん専門医等専門的がん医療従事者の育成 18億円（2.5億円）

- ・大学教育等の充実 ……文部科学省 14.4億円（0億円）
- ・国立がんセンター等における研修の充実
 - ……厚生労働省 3.6億円（2.5億円）

III がんに関する研究の推進及び医療技術の開発振興

- 394.9億円（332.1億円）
- ・基礎研究等 文部科学省 187.5億円（150.7億円）
- ・臨床への応用等 厚生労働省 87.4億円（83億円）
- ・医療機器開発等 経済産業省 120億円（98.4億円）

※そのほか、がん検診の費用として、市町村に対し642.2億円分の地方財政措置を講じている（平成18年度）。

厚生労働省におけるがん対策関係予算について

施策の方向性

- がんが国民の疾病による死亡の最大の原因となっている現状及び本年6月に制定されたがん対策基本法を踏まえ、総合的かつ計画的にがん対策を推進する。
- 平成19年度に策定する「がん対策推進基本計画」を見据え、がん対策基本法に定める基本的施策及び参議院厚生労働委員会における附帯決議事項を着実に実施する。

< 19年度予算案のポイント > 19年度当初内示：212億円
18年度補正予算案：15億円

18年度予算額 161億円 ⇨ 合計 227億円

1. がん予防・早期発見の推進 30億円

① 効果的で質の高いがん検診の普及 6.8億円

- 新 ・がん検診の精度管理を向上させるためのデータベースを構築する。
- 新 ・デジタル式マンモグラフィ導入機関に対し、マンモグラフィによる乳がん検診におけるコンピュータ診断支援システムの導入の支援を図る。
- ・マンモグラフィ検診従事者に対する研修を実施することにより、乳がん検診の精度向上を図る。
- 〔 ・マンモグラフィによる乳がん検診の診断精度の向上を図るため、遠隔診断により支援を行うモデル事業を実施する。(18年度補正) 〕

② がん予防の推進と普及啓発 24億円

- 新 ・がんの予防等に関するパンフレットや小冊子を作成し、国民に対する普及啓発を行う。
- ・肝がんの予防に重要なウイルス性肝炎に関する研究を重点的に推進する。

2. がん医療水準均てん化の促進と情報収集提供体制の整備 90億円

① がん専門医等がん医療専門スタッフの育成 3.6億円

- ・がん医療(化学療法、放射線療法、緩和ケア等)専門スタッフの育成のための研修を実施する。

② がん診療連携拠点病院の機能強化と診療連携の推進 54億円

- 新 ・がん診療連携拠点病院の機能強化を行うとともに、地域医療機関との診療連携を推進する。
- 新 ・放射線治療の更なる促進を図るため、がん診療連携拠点病院に対し、高性能かつ先進的な放射線治療機器の整備の緊急支援を行う。
- 〔 ・病理医の配置が十分でないがん診療連携拠点病院に対し、遠隔画像診断が可能な体制を整備する。(18年度補正) 〕

新 ③ 国立がんセンター東病院通院治療部(仮称)の設置 27百万円

新 ④ 地域の特性を踏まえた対策の推進 15億円

- ・がん対策基本法の施行に伴い、都道府県が新たに実施する地域特性を踏まえた事業や先駆的な事業等に対する支援を行う。

⑤ がん医療に関する情報の収集提供体制の整備 17億円

- ・国立がんセンターに設置した「がん対策情報センター」において、がん医療に関する最新の情報の収集提供体制を整備する。
- 新 ・がん登録の実施に関する調査・精度管理、指導を実施する。

3. がんの在宅療養・緩和ケアの充実 4. 6億円

① 在宅緩和ケア対策の推進

2. 1億円

- 新 ・在宅における緩和ケアを希望する患者等に対する総合的な相談・支援を行う「在宅緩和ケア支援センター」を設置する。
- ・在宅ホスピスケアの専門的な技術を有する看護師のアドバイザー派遣や普及啓発を行う。

② 緩和ケアの質の向上及び医療用麻薬の適正使用の推進

2. 5億円

- 新 ・臨床現場で活用できる「緩和ケアマニュアル(仮称)」の作成や一般国民等に対して緩和ケアについての普及啓発を行う。
- 新 ・医療用麻薬の適正使用を推進するため、講習会の開催及びマニュアル作成の検討を行う。

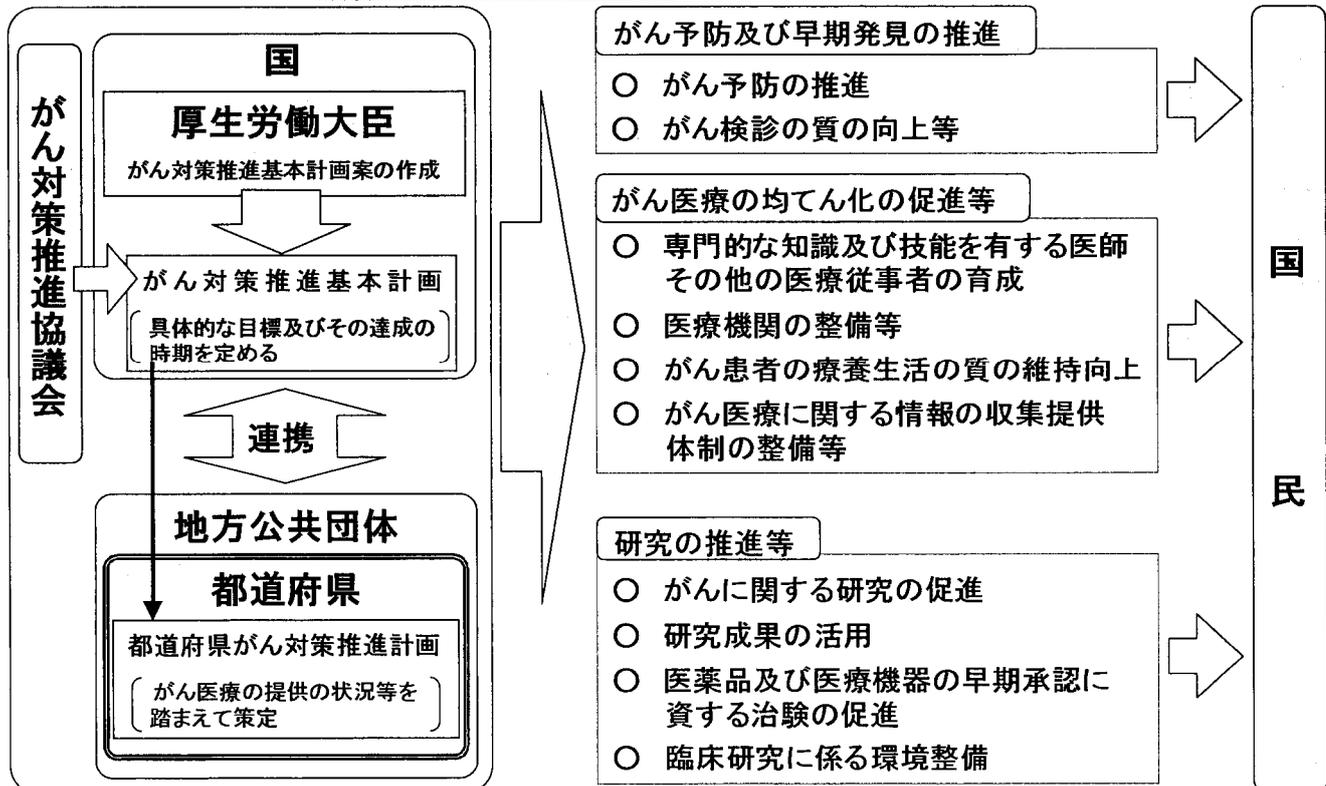
4. がんに関する研究の推進及び医療技術の開発振興 87億円

- がんに関する専門的、学際的又は総合的な研究を推進するとともに、がんの予防、診断、治療等に係る技術の向上などの研究の成果を普及、活用する。

<参 考>

がん対策基本法の概要

がん対策を総合的かつ計画的に推進



文部科学省におけるがん対策関係予算について

平成19年度予算案:202億円(平成18年度予算額:151億円)

「第3次対がん10か年総合戦略」

戦略目標：我が国の死亡原因の第一位であるがんについて、研究、予防及び医療を総合的に推進することにより、がんの罹患率と死亡率の激減を目指す。

がんの本態解明

- ・科学研究費補助金
(特定領域研究5領域)
- 学横断的な発想と先端科学技術の導入に基づくがんの本態解明の飛躍的推進
(H19予算案:45億円)

トランスレーショナル・リサーチ

- ・革新的ながん治療法等の開発に向けた研究の推進
- 基礎研究の成果を積極的に予防・診断・治療等へ応用するトランスレーショナル・リサーチの推進 (H19予算案:7億円)
- ・橋渡し研究支援推進プログラム*
- 有望な基礎研究の成果を創薬に繋げる等、イノベーションを創出するための橋渡し研究を支援する拠点を整備
(H19予算案:15億円)

革新的ながん診断・治療法

- ・分子イメージング研究プログラム
創薬プロセスの改革、疾患の診断技術等の開発を推進 (H19予算案:14億円)
- ・重粒子線がん治療研究等(放医研)
「重粒子線がん治療法」等の開発を推進 (H19予算案:72億円)
- ・粒子線がん治療に係る人材育成プログラム*
専門知識等を有する人材をオン・ザ・ジョブ・トレーニング等で育成(H19予算案:0.4億円)
- ・国立大学法人運営費交付金等の確保
大学におけるがん治療研究等を推進 (H19予算案:34億円)
等

大学におけるがんに関する教育・診療

がんプロフェッショナル養成プラン*

がん医療の担い手となるがん専門医師及びがん
に特化した医療人の養成を行うための大学の取
組みを支援 (H19予算案:14億円)

医学部教育における取組

「医学教育モデル・コア・カリキュラム」
に基づくがんに関する教育の実施

大学病院における取組

がんセンター等の横断的ながん治療等を行
う診療組織の設置等による診療の充実

*は平成19年度新規事業

経済産業省におけるがん対策関係予算について

()内は平成18年度予算額

がん対策関連予算平成19年度予算案総額: 120.0億円 (98.4 億円)

1. 医療機器関連 29.6億円 (21.5 億円)

○インテリジェント手術機器研究開発プロジェクト

7.0億円(新規)

手術中にがん細胞の位置や形状を正確に把握し最小限の切除で、がんを完全摘出する手術システム
(経済成長戦略大綱関連予算)

○分子イメージング機器研究開発プロジェクト

12.0億円(10.3億円)

がん細胞の特徴を捉え、がんを超早期に発見する診断機器

○次世代DDS型悪性腫瘍治療システム

10.6億円(10.1億円)

がん細胞に抗ガン剤を集積させ、活性化し、がん細胞のみを選択的に消滅させるシステム

○ナノ医療デバイス開発プロジェクト 終了(1.1億円)

消化器・気管支等にできる上皮がんを早期に発見するための高感度内視鏡システム

2. イノベーションの創出・加速 19.0億円 (新規)

○基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発

19.0億(新規)

先進医療技術を創出するために、医療現場のニーズに基づき、多様なバイオ技術など基礎・基盤研究の成果を融合し、円滑に実用化につなげる技術開発(橋渡し研究)を推進。文部科学省が実施する橋渡し研究の拠点整備や厚生労働省が実施する臨床研究事業と連携。

(経済成長戦略大綱関連予算)

3. 創薬に向けた支援技術 71.4億円 (76.9 億円)

○ゲノム創薬加速化支援バイオ基盤技術開発

43.6億円(46.5億円)

がん等の病気の仕組みを遺伝子レベルで詳細に解析する基盤技術を開発し、疾患の仕組みの解明や治療薬の開発に貢献

○糖鎖機能活用技術開発

11.9億円(11.9億円)

がん等の疾患の目印となりうる糖鎖の機能を解明し、疾患の仕組みの解明や早期診断に貢献

○新機能抗体創製技術開発

11.9億円(12.0億円)

がん等の疾患に対する治療薬や診断薬等に応用できる抗体を効率的に作成する技術の開発

○個別化医療の実現のための技術融合バイオ診断技術開発

4.0億円(6.5億円)

個人の遺伝的特性に基づく抗ガン剤の選択や、がんの早期発見を可能にする画期的な診断技術の開発